フォルム NO.318 Since 1956
日文教育資料［図画工作・美術］

形

— forme —

特集

新しい図画工作の教科書

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

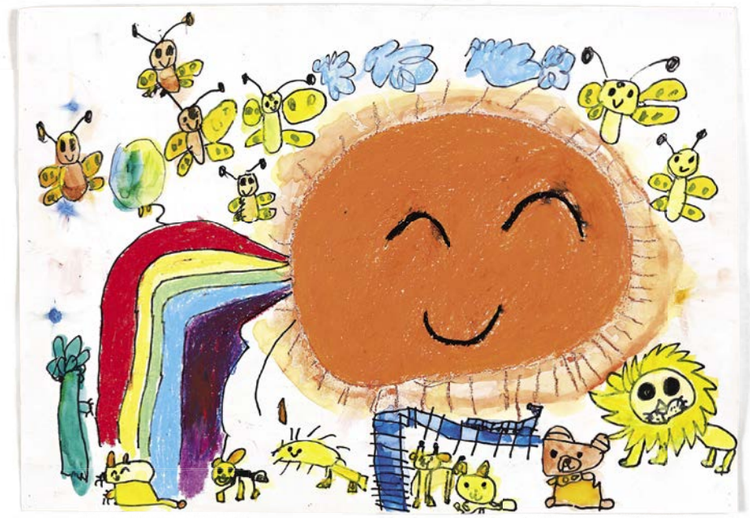
日文の教科書情報
詳しくはWebへ！ 日文 検索

2020年度版　小学校図画工作科　内容解説資料として扱われます。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

児童作品解説 私の見方

文：北海道教育大学岩見沢校教授 阿部宏行（あべ ひろゆき）



おひさまの たんじょうびです。どうぶつたちが おいわいに きて、みんなで たのしんで います。にじは かいだんに なって いて、おひさまの ちかくに いく ことが できます。（児童コメント）

おひさま、おめでとう
［パス・絵の具・ペン／38×54cm］
2020年度版 小学校図画工作科教科書
「ずがこうさく 1・2上」表紙掲載

大きなおひさまが笑っています。たくさんの動物たちが、大好きなおひさまに「おめでとう」を届けようと、集まってきているからでしょう。ペンでかかれた動物たちの表情、パスによる描写、おひさまの周りの絵の具の暖かな感じなど、この絵には、作者の「こうしたい」という主体的な表現があふれています。

この絵が生まれたときの様子を想像してみてください。作者のコメントからは、絵をかきながら、友だちや先生に「この虹の階段で、おひさまの近くまで行けるんだよ」と話している様子がうかがえます。そのお話に、笑顔で応える友だちや先生の表情さえも感じられそうです。教室には子どもたちの声が響き、きっとお互いの表現を認め合う対話的な学びの姿があったはずです。

子どもの絵は、子どもの思いの表れであると同時に、伝えたいことを自分なりの表現で表したものです。子どもの「思い」は、「命」なのです。

あなたは、どう思いますか。

小 | 中 | 高

形 forme No.318-2019
日文教育資料［図画工作・美術］
令和元年（2019年）5月17日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

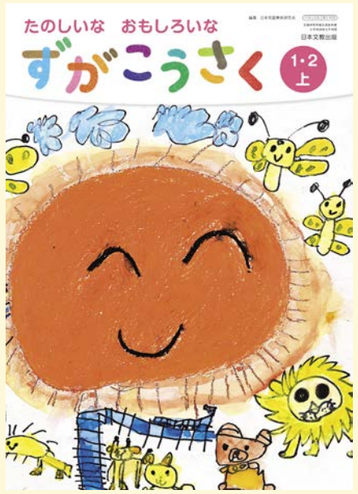
CD33440　　制作：株式会社 東京矢印

日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

特集 新しい図画工作の教科書

二〇二〇年度から使われる、
小学校図画工作科の新しい教科書。
「より使いやすくなったポイント」と
「教科書ができるまで」を解説します。



はじめに

「形 forme」は広く現代社会の要求に応える
美術教育の理論と実践の紹介を目的として
一九五六年に創刊されました。
以来六〇年を超える長きにわたって、
美術教育に寄り添って刊行を続けています。
「形 forme」という書名は
造形と人間形成をシンボライズしたものです。
子どもたちのための
美術教育に取り組んでおられる先生方、
美術や造形にかかわるすべての方々、
そして保護者の皆様のために、
これからも、よりよい美術教育を目指す
道標となる内容を目指していきます。

Index No.318

③ **特集 新しい図画工作の教科書**
授業のめあてがはっきり分かる
様々な場面で学びを支える
教科書ができるまで
よりよい図画工作教育のために

⑬ **ABC PICK UP**
阿部宏行

⑭ **学びのフロンティア（小学校）**
わたしの６月の絵　宮内 愛

⑯ **子どもの絵の見方**
｜第４回｜わたしの６月の絵　奥村高明

⑱ **そぞろみ部**
｜第 10 回｜３月　文：市川寛也 イラスト：今井未知

⑳ **インタビュー**
栗田宏一

㉓ **ミュージアム・エデュケーションのトビラ**
札幌芸術の森美術館　井上みどり

㉔ **まず見る**
｜第 21 回｜名前を忘れてみる　成相 肇

㉖ **学びのフロンティア（中学校）**
妖怪図鑑　中島 嵩

㉘ **ラフスケッチ**
｜第８回｜東京都立両国高等学校

㉚ **「小学校教科 Web」「中美（チュービ）」**
図画工作・美術の特設 Web ページを紹介

㉛ **新版図画工作科教科書 教師用指導書のご案内**

㉜ **児童作品解説 私の見方**
阿部宏行

本冊子で紹介している活動写真や情景写真、教科書紙面は2020年度版図画工作科教科書のものです（そぞろみ部、学びのフロンティア（中学校）、ラフスケッチを除く）。

アートディレクション：清水 一（東京矢印）
編集・ディレクション：山本武義、谷岡 彩（東京矢印）
デ ザ イ ン：東京矢印
表 紙 構 成：山添 joseph 勇
表 紙 写 真：市来朋久
表紙タイトル：青木俊輔
特集テキスト：細川英一（ART DIVER）

表紙の写真より
ならべる（ひらめきポケット）

まっすぐにならべる、ギザギザにならべる、まるくならべる、かくかくならべる、いろをかえてならべる、おおきさをかえてならべる、たてにならべる、むきをかえてならべる……。

いろいろなならべかた。ならべてできるいろいろな形。
見ているうちに試したくなる。試すうちに見えてくる。

子どもたちが、試しながら発想を広げられるようにつくりました。

新版教科書 1・2下 p.34・35 「ひらめきポケット　ならべる」より

山添 joseph 勇（やまぞえ じょせふ いさむ）
（美術家／深沢アート研究所）
現代の子どもの「つくる」を研究し、子ども造形教室（東京都世田谷区深沢）や子ども造形ワークショップの実施、子ども造形プログラム制作などを主な活動とする美術家。
2020年度版「図画工作」著者。1・2下「ひらめきポケット」も彼のディレクションによるもの。

ページ下部に、それぞれのコーナーと校種の関連性の強さを表示しています。各企画は小・中・高全ての校種に関連がありますが、特に関連の強い校種を大きくしています。

例：| 小 | 中 | 高 |　特に小学校に関連の強いコーナーを表します。

授業のめあてがはっきり分かる

育む資質・能力が見える

題材は全て見開きページで掲載。活動を通して育成する資質・能力が見える紙面を目指しました。

1「学習のめあて」で分かる

資質・能力の三つの柱に基づいた
学習のめあてを各題材に設定。
児童にも分かりやすい言葉で示しています。
評価の参考にもなります。

2「図版とテキスト」で分かる

活動の参考になるだけでなく、**学習のめあて**に示された育む**資質・能力**を、さらに深く理解することができます。

◎活動の写真＋吹き出し

生き生きと学ぶ姿、すなわち**資質・能力**を発揮している姿が写真で具体的に分かり、**吹き出し**が読み取りを深めます。

◎作品＋タイトルやコメント

児童の思いや工夫があふれる作品から発揮している**資質・能力**が分かり、**タイトルやコメント**が読み取りを深めます。

⬇楽しい魚エコ学校
［高さ38cm／箱，ボール紙，色セロハン，綿，PEテープ など］

魚の形をした学校です。中にプールがあります。いらなくなった水を花にやることができるようになっているなど、水を再利用することができる、環境にやさしい学校にしました。

5・6下p.46・47「ドリーム・プロジェクト」

3「活動の後で」で分かる

学びを生活や社会に生かし、よりよい人生を送るための**学びに向かう力、人間性等**の涵養へとつなげるために、活動を通して感じたり考えたりしてほしいことを例示しています。

キャラクター ちろたん

造形的な見方・考え方に基づき、「ヒントを伝える」「児童の発見を認める」などして、**深い学び**につなげます。

学習指導要領

学びに向かう力、人間性等はどう見取るの？

学びに向かう力、人間性等には二つの側面があります。

❶観点別評価を通じて見取ることができる（**『主体的に学習に取り組む態度』**）

❷観点別評価や評定にはなじまず、**個人内評価**を通じて見取る（個人のよい点や可能性、進歩の状況について）

教科書では、❶を**学習のめあて**に示す一方で、観点別評価や評定になじまない❷を**活動の後で**に示しています。

学びに向かう力、人間性等 ❶▶ ❷▶

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日） 参考

用具マーク
活動で使う主な用具をアイコンで示しています。

リンク
関連が深いページへのリンクを示しています。

つくりかた
基本的な仕組みやつくり方について、イラストで分かりやすく示しています。

きをつけよう
安全に活動できるよう、注意事項を示しています。

かたづけ
材料の再利用や、使った場所を元に戻すことなどを示しています。

道徳マーク
道徳と関連が深い教材には道徳マークを付けて示しています。

様々な場面で学びを支える

主体的・対話的で深い学びを実現する

授業の入り口から出口まで、子どもの活動を支え、主体的・対話的で深い学びをサポートする紙面を目指しました。

導入

1 紙面でわくわく 主

楽しさが一目で伝わる紙面が、活動への興味・関心を高め、**主体的な学び**の扉を開きます。

2 分かりやすい投げかけが意欲を高める 主 深

活動への意欲を引き出す投げかけの言葉は、題材名下の**リード文**が参考になります。やってみたいことを思い付き、**深い学び**が始まります。

ちょきちょきかざり

かみを おったり かさねたり して きって みよう。
どんな かたちが できるかな。
できた かたちで かざって みよう。

3 学習のめあてを共有 主

めあてを共有することで、見通しをもって活動に取り組む**主体的な学び**につながります。

4 用具の使い方を確認

リンクに示された「使ってみよう 材料と用具」も活用して、安全で適切な用具の使い方を確認できます。

1・2上p.64

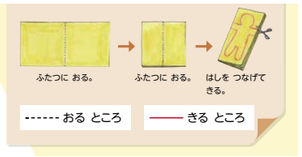
展開

5 活動の写真や作品がヒントになる 対

写真に写っている児童を、自分の友だちのように関心をもって見て（＝**対話的な学び**）、活動の様子や作品の工夫に目を向けることで発想が広がります。

6 つくりかたがヒントになる

分かりやすいイラストで、基本となるつくり方や仕組みの理解を助けます。

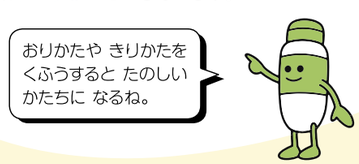


7 対話がヒントになる 対

友だちの活動や作品を見合ったり話し合ったりしている様子が、活動中の鑑賞や**対話的な学び**を促します。

8 ちろたんが気付きを促す 深

知識や**イメージ**など**（共通事項）**に関する投げかけが、**造形的な見方・考え方**が働く**深い学び**へといざないます。



9 活動を振り返る 主

導入で確認した**学習のめあて**に照らし合わせながら活動を振り返ることで、学んだことや身に付いた力を自覚することが、**主体的な学び**につながります。

10 学びを生かす 主 深

活動の後でを参考に活動を通して感じたことなどを話し合うことで、**学びを次の学習や生活の中で生かそうとする気持ちを育みます。**

学習指導要領

主 体的・対 話的で 深 い学びのポイントは、場面設定を意識した授業設計

主体的・対話的で深い学びの実現のためには、**①学習を見通す／振り返る場面 ②友だちと対話する場面 ③児童が考える／教師が教える場面** などを、題材など内容や時間のまとまりの中でどのように設定するのか考えることが大切です。この教科書は、そのサポートをします。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 1（1） 参考

特設ページもリニューアル！

題材ページだけでなく、学びをより深めるための特設ページも充実させています。このほか「図画工作のつながり ひろがり」や、オリエンテーション、幼児期・中学校との接続ページについては、公式Webサイトより内容解説資料をご覧ください。

教科書美術館

身の回りのものから美術作品まで、魅力的な図版が子どもたちの感性に働きかけ、能動的な鑑賞活動を促します。図版を見て感じたこと、考えたことなどを対話することで、言語活動の充実にもつながります。

3・4上p.2-4 「しぜんの色」

ひらめきポケット

発想のヒントページを新設。「組み合わせる」「分ける」といった行為をテーマに多様な図版を掲載し、手や体を動かしながら発想を広げることを促します。「造形的な見方・考え方」を働かせることにもつながります。

1・2下p.34・35 「ならべる」

使ってみよう 材料と用具

各巻8ページにわたり、材料や用具の基本的な扱い方を写真とイラストを使って丁寧に説明しています。6年間を通して様々な材料や用具に触れながら着実に経験を積み上げていけるよう構成されています。

①題材をつくる

4 多様な発想のきっかけから資質・能力が身に付く題材を掲載！

資質・能力を育む深い学び、その鍵は「見方・考え方」です。
子どもたちが「造形的な見方・考え方」を働かせられるような、
様々な発想のきっかけを用意しています。

材料や場所に出合って

1・2 下p.12・13「にぎにぎ ねん土」

感触を味わって
にぎった粘土の形から思い付いたものをつくる。

どんどん試しながら

5・6 下p.10・11「墨と水から広がる世界」

描画材で試しながら
墨と水を使って和紙に試しながら、思いを広げて表す。

感じたこと想像したこと見たことから

1・2 下p.38・39「おもいでを かたちに」

生活経験から
生活の中で心に残っていることを粘土で表す。

題材づくりについて西村先生にお話を伺いました

題材づくり

「子どもたちへのメッセージ」と「活動する姿を想像すること」

授業で最も大切なことは、題材に教師から子どもたちへのメッセージが込められていることです。そのメッセージとは、授業を通して「こんな力を身に付けて欲しい」「こんな見方や考え方に気付いて欲しい」という教師の願いや思いです。題材づくりでは、子どもたちが自らの力を十分に発揮できるよう、テーマや材料、活動の場所など、授業の要素を組み合わせていきます。授業が教師の独り善がりにならないよう、子どもたちの活動する姿を想像しながら題材づくりをすることを大切にしています。

子どもとつくる図工の時間

西村徳行（にしむら とくゆき）
東京学芸大学准教授

1971年京都市生まれ。都内中学校、筑波大学附属小学校を経て、2014年より現職。専門は美術科教育学、鑑賞教育。「みること」を軸にした図画工作・美術科教育カリキュラムの研究を行っている。

②掲載写真や作品を選ぶ

4 活動のヒントになるよう、資質・能力が表れている写真や作品を掲載しています！

活動の写真と作品は「学習のめあて」に対応し、
発想していることや工夫していることを
読み取って活動の参考にすることができます。

巻頭オリエンテーションで教科書の見方を伝えています。

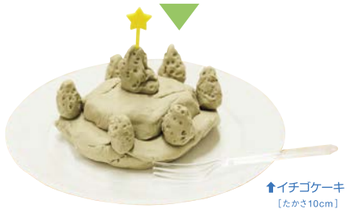
写真や作品は のヒントです。

つくりかたを くふうして，おもいにあう かたちを みつける。

かたちを かんがえて つくり，みんなで ごちそうを みあう。

すきな たべものを つくって，みんなで みる ことを たのしむ。

ながく した ねんどを まいたよ。



⬆イチゴケーキ
［たかさ10cm］

1・2 上p.26・27「ごちそう パーティー はじめよう！」

活動の写真を撮影していただいた川瀬さんにお話を伺いました

学校を取材

「わたしの6月の絵」より

川瀬一絵（かわせ かずえ）

島根大学教育学部造形美術コース、東京綜合写真専門学校卒業。写真とデザインの会社・株式会社ゆかいを経て、2019年春より独立。作品発表を軸に、様々な分野の撮影を担う。近年の個展に「風が吹いている」（東京、2018）ほか。

「創造する」ことへのまっすぐなまなざし

子どもがかこうとする想いそのものや、考えて組み合わせていったもの、それはそれだけで宝物だと思います。その宝物の1番の価値とは、子どもから湧き出てくる率直な想いや想像力の方にあり、造形要素や造形力は2番目の価値かもしれません。そう思えてしまうほど、子どもの作品や製作の様子から、人が「創造する」「表現する」ことの本質を垣間見ているように感じます。

画材や素材の性質を受け取り、子どもが自分の中にもっている記憶や想いを融合・展開させて何かを深く捉えようとしている時の、まっすぐなまなざしの尊さに惹きつけられて撮影しています。

③社会とつながる活動を取材する

4 図工で学んだことを社会に生かそうとする態度を育みます！

図画工作や美術と社会との関わりについて考えることができるような事例を掲載し、
図画工作で学んだことをどう生かすことができるのか伝えています。

社会とつなげる

社会とのつながりについて大泉先生にお話を伺いました

『図工ってなんのためにやるの？』

この問いかけに、どのようにこたえますか？『（とにかく）大切だから』。その通りです！ これからは、その『大切さ』を、子どもも先生も《実感》できるような授業づくりをすることが求められます。「授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるという実感を持てるよう、指導の改善・充実を図ることが求められる」。これは、学習指導要領改訂の検討を行った芸術ワーキンググループの提言の一部です。ロバート・フルガムが、『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』と語ったように、子どもたち一人一人が造形表現という感じたことを大切にする活動を通して、人・もの・ことと関わるようにしたいですね。

大泉義一（おおいずみ よしいち）
早稲田大学教育・総合科学学術院准教授

現在の研究テーマは、美術科教育の授業論、デザイン教育論、造形ワークショップ実践論。学習指導要領解説図画工作編の作成協力者（平成20年）・改善の協力者（平成29年）。学生とともに造形ワークショップ・プロジェクト『アートツール・キャラバン』を開発・実践（2011年キッズデザイン賞受賞）。

④分かりやすく、伝わりやすいデザインに整理する

4 見るだけでわくわくして、やってみたくなる紙面に！

子どもの意欲や主体性を引き出す楽しいデザインであるとともに、
全ての子どもにとって読みやすく分かりやすい教科書を目指しました。

紙面デザイン

紙面のデザインをしていただいた佐藤さんにお話を伺いました

どんな子も受け入れる懐の深さを

「小学生のときこれに出合いたかった！」と自分でも思える紙面を心がけました。子どもたちの好奇心は本当に様々です。昔も今も大人の予想を遥かに超えています。図画工作に積極的な子もそうでない子もいますが、みんなそれぞれに、それぞれの目で、飛び込んでくるものを受け止め、返そうとします。誘導して一色に染め上げる発想ではなく、まずは「ようこそ！」という入り口になる工夫が必要と考え、随所でチャレンジしてみました。

佐藤直樹
（さとう なおき）

1961年東京に生まれ、30ヶ所を転々とする。北海道教育大学卒業後、美学校菊畑茂久馬絵画教場修了。札幌国際芸術祭2017バンドメンバー。「アーツ千代田3331」デザインディレクター。多摩美術大学教授。

ABC PICK UP

4コマ漫画で、子どもや図工のことを学べるABCシリーズ。ここでは、同シリーズから毎号のテーマに合わせた内容を選んでご紹介します。

今回は、『題材のABC』p.44をピックアップ！

「思い」を読み解く先生のまなざし

子どもの作品は一人一人の成長の証です。しかし、作品だけに成長が表れるわけではありません。学級担任であれば日頃の行動や所作から、図工専科であれば昨年と比較しながら、子どもの成長を捉えて、その姿を日々評価しています。

図工の教科書の中には様々な子どもの情景写真が掲載されていて、そこから子どもの喜びや、深く考えている姿を読み取ることができます。その姿を参考にしつつ、教室という生の営みのある空間で、自分の目の前にいる子ども一人一人の「思い」を捉えていくのが先生です。

資質・能力は、活動の全過程を通して発揮されることを忘れず、子どものつぶやきや仕草、そして表情から捉えるように心がけましょう。そこに、子どもの「思い」があります。

※このコーナーは、ABCシリーズからピックアップしたページを基に、再編集して掲載しています。

ABCシリーズのラインナップ

ABCシリーズは公式Webサイトで全編をお読みいただけます。
また、冊子をお送りすることもできます。

著者紹介
阿部宏行（あべ ひろゆき）

1954年生まれ。北海道教育大学岩見沢校教授。中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会幼児教育部会委員、同芸術ワーキンググループ委員（平成29年）、文部科学省「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者主査（小学校図画工作）」（平成29年）などを歴任。

教科書の写真は、資質・能力を発揮している姿なんだな。
子どものどんな姿を見取ればよいのか、参考にしてもらいたいな！

よりよい図画工作教育のために

いろいろ選べる発行資料ラインナップ

日本文教出版では、教科書だけでなく、
日々の授業をサポートする様々な資料を発行しています。

学習指導要領の理解に役立つ

●図工のみかた
教科書著者の先生方が、大切にしたい子どもの姿について、新学習指導要領のキーワードに結び付けながら語ります。

授業づくりに役立つ

●子どもとつくる図工の時間
授業づくりのポイントを、様々な視点から見つめます。西村徳行先生（東京学芸大学准教授）編著。

⑧ ページもご覧ください

4コマ漫画で分かりやすい

●ABCシリーズ
累計25万冊！ 阿部宏行先生（北海道教育大学岩見沢校教授）が、先生の心得や指導の手立てを4コマ漫画でやさしく解説。

次ページもご覧ください

社会・地域とつながる

●図工・美術でゆたかなくらし
「社会に開かれた教育課程」を実現する実践例とポイントを紹介。大泉義一先生（早稲田大学准教授）編著。

⑩ ページもご覧ください

子どもを想う大人たちへ

●まなびと〜よりぬき「学び！と美術」〜
奥村高明先生（日本体育大学教授）のWebマガジンが冊子に！ 教科の枠にとどまらない、「子どもと教師の関係のあり方」を読み解きます。

⑯⑰ ページもご覧ください

Webでも

●小学校教科Web
日本文教出版が発行している小学校6教科の教科書の最新情報や、動画、Q&A、文部科学省情報など、関連コンテンツをお届けします。

㉚ ページもご覧ください

小学校三・四年生
学びのフロンティア
授業実践

わたしの６月の絵

自分の感じた6月を、自分なりの方法で表す

不安定な天気に、気分も沈みがちな６月。
シトシトと降る雨の音、湿った空気の匂い、グレーがかった空―。
子どもたちの目には、この季節がどんなふうに映っているのでしょう？
題材に込められた、先生の思いをお聞きしました。

東京都　中野区立平和の森小学校　宮内（みやうち）　愛（あい）　先生

移ろいやすい六月だからこそ

六月は天気がころころ変わり、曖昧な季節です。子どもたちの気分も移ろいやすく、だからこそちょっとした変化に敏感になる時期でもあります。日々の生活の中で、子どもたちが六月をどのように感じ取っているのか知りたい、と思ったことが題材をつくるきっかけでした。

体で感じて、言葉にしながら、浸透していく

まず、六月を言葉にしてみることから始めました。子どもたちに「六月と言えば？」と問いかけると、「カエル」「あじさい」などの言葉が出てきました。けれど、今回はみんなが共通にイメージする六月ではなく、「自分が」感じる六月を見付けてほしい、と思ったんです。

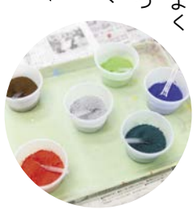
そこで、外に出て六月を感じるものを探す時間をつくりました。梅の実の匂いを嗅いだり、葉に触れたり、様々な方法で六月を探し、スケッチします。

教室に戻ったら、見付けたものを発表し合いました。「くちなしの匂い」「蛇口から落ちる水のポタポタって音」など、最初に比べて実感の込もった言葉が出てきました。「雨と言ってもいろんな雨があるよね？」と問いかけると、「霧みたいな雨もあるね」「土砂降り」「ポチャン」など、どんどん言葉が出てきて、六月のイメージが子どもたちの中に浸透していきました。

自分の六月を引き出す用具

《粉絵の具と特大の卵パック》

今回は「六月の色ってどんな色？」と考えながらかいてもらうため、使い慣れている水彩絵の具ではなく、初めて粉絵の具を使用しました。色を混ぜて新しい色をつくる楽しさに改めて気持ちが向き、せんたくのりや水で濃度を調節したり、粉のまま使ったりと、表現の幅も広がります。パレットには、給食用の三十個入る卵パックを使用。透明なのでつくった色がよく見えるし、少しずつたくさんの色がつくれるので、色づくりの楽しさが倍増します。



《基底材は丈夫な段ボール》

段ボールは丈夫なので、絵の具の水分にも耐えられますし、立てかけてかくこともできます。いろいろな形を用意し、選べるようにしました。

イメージが混ざり合って、「わたしの」六月になっていく

筆を叩いて飛び散った雨をかいている子がいたんですが、隣の子が「ポチャンポチャンって言いながらかいてたよ」と教えてくれました。子どもって、友だちがどんなことをしているのか、すごくよく見ているんです。

「今、自分がいる六月」を見つめた今回の授業。簡単な言葉やスケッチから始まり、外で見付けたり感じたりしたもの、たくさんつくった六月の色、友だちのかく六月―それらのイメージが混ざり合いながら「わたしの」六月の絵になっていったのだと思います。

文：國分唯未（Playce）　写真：川瀬一絵（ゆかい）、伊藤 萌（ゆかい）

「わたしの６月の絵」
題材ページはこちら

新版 教科書 3・4上 p.18・19 「わたしの6月の絵」より

指導計画

時間	領域
7時間	A表現・B鑑賞

材料・用具

段ボール、粉絵の具、卵パック、せんたくのり、筆、刷毛、スケッチブック、色鉛筆

学習目標

自分が6月から感じたことや考えたことを、色づくりやいろいろな表し方を楽しみながら表す。

題材の目標

●知識及び技能
スケッチや色づくりなどをしながら、感覚や行為を通して６月の感じを捉え、色や表し方を工夫する。

●思考力、判断力、表現力等
自分なりの６月のよさや面白さを感じ取り、６月のイメージを広げたりつなげたりして、表し方を考える。

●学びに向かう力、人間性等
６月の世界を感じたり、材料と関わる中で表したいことを見付ける活動を通して、「自分が、今」感じていることや考えていることに目を向ける。

「わたしの６月の絵」 活動の流れ

① イメージを言葉に

手のひらサイズのスケッチブックに思い付く言葉を書き出してみます。雨、かさ、かたつむり、雷などなど。書き留めておくことで、いつでも見返すことができます。

② 自分の体で感じる

スケッチブックと色鉛筆を持って外へ。「くちなしと梅、どっちの匂いが好き？」「この朝顔のつる、どこまで伸びるんだろう？」と、体の感覚を働かせて見付けていきます。

③ 色をつくって感じる

粉絵の具を混ぜて生まれる色を楽しむ子どもたち。少しずつ違う青色、淡いトーンの色、水を含んでジュルッとした土の色。自分だけの6月色のパレットになります。

④ 6月を絵に表す

全部の指に違う色の粉絵の具をつけて、ピアノを弾くようにかいたり、筆でポタポタと雨を降らせるようにしたり。思い思いの表し方で、「わたしの」6月の絵が生まれます。

Message

授業中、ある子どもに「ほかの子がこんなことをやっているよ」と紹介したら、「そんなことやっていいなら、先に言ってよ！」と言われたことがあったんです。「やっていいことは、ここまで」という線引きが子どもの中にあったのだと思います。

図工の時間では、「今、自分がおもしろいと思うこと」を気が済むまでやってほしいと思っています。

自分の“おもしろ”を、とことん追求してほしい

「こうしなければならない」ということは一つもないんです。子どもたちにも伝えたくて、「第一に、安全・安心。第二に、おもしろ」というメッセージを図工室に掲げています。

作品というゴールよりも、つくる過程で夢中になったことを大事にしてくれるといいなと思います。自分なりの“おもしろ”を見付け、育てていくことが、今後の人生の支えになってくれると思うんです。

「わたしの６月の絵」から生まれた作品を「子どもの絵の見方」の奥村先生と見ていきましょう。

みんなが「わたしの」6月を見付けたように、子どもたちには、教科書の題材を通して一人一人が自分の「いいな」を見付けてほしいな！

奥村先生の 子どもの絵の見方 #4

「学びのフロンティア（小学校）」
宮内先生の実践を通して生まれた
『わたしの６月の絵』。
その作品を通して、子どもの発揮した
資質や能力を見ていきましょう。

雨と晴れ
［段ボール・絵の具／30×42cm］

晴れの時と雨の時を、1まいにかきました。太ようはかかず、黄色とオレンジ色をつかい、スポンジでこすって色をつけて、光をあらわしました。（児童コメント）

段ボールによるでこぼこのムラ

近づく

画面は上下に分かれています。画面の上は晴れの日。空の色には、微妙な変化があります。青、黄、オレンジなど、いろいろな色が見えます。画面の下は雨の日。明るさの違う灰色が組み合わされています。ぼつぼつと青い線や点も見えます。この子が、「色の感じ」や「色の明るさ」などの**知識**を活用していることが分かります。（＊1）

たどる

色には、でこぼこしたムラがあります。段ボールのせいです。段ボールは強いので、スポンジを使って、画面の上で色を混ぜても大丈夫です。用具を工夫しながら、光の感じを表そうと、いろいろな色を画面の上で重ねる**技能**が働いています。

考える

「晴れの時と雨の時」を一枚にかくというアイデアを基に（**発想**）、画面の上は「晴れの日の空」、下半分は「雨の日の水たまりの反射」と画面構成を工夫しています（**構想**）。また、「晴れの日」の人は何も持っていないのに、「雨の日」の人は黄色い傘を持っています。時間の経過や「雨が止んで喜んでいる私」を表したのでしょうか。日常の体験や六月を確かめた学習（六月探し）が反映されています（**思考力、判断力、表現力等**）。

わたしは、となりの木の葉っぱが風にゆれておちていくかんじをあらわしました。同じ色の葉っぱがなくなるようにいろいろな色をまぜて葉っぱの色をつくりました。風に色をつけました。葉っぱのむきがおなじにならないようにしました。
（児童コメント）

風にゆれておちるはっぱ
［段ボール・絵の具・パステル／42×42cm］

飛んでいる葉と風の表現

近づく

飛んでいる葉、落ちている葉、風、いろいろな色の葉っぱが飛んでいます。地面には、一つ一つ異なる色の葉が落ちています。葉の間に見える風も、色が様々です。低学年で身に付ける「いろいろな色」という知識が、中学年らしい**知識**に発展しています。（＊2）

たどる

よく見ると、いくつかの同じ色が用いられています。色に濁りはありません。あらかじめ十二色以上つくって、それを順番に組み合わせながらかいたのでしょう。粉絵の具による色づくりの体験（六月の色）を生かしながら、「表したいことに合わせて表し方を工夫」しています（**技能**）。

考える

「風に揺れて落ちる葉の感じ」という**発想**を実現するために「どの色とどの色を組み合わせるか」「見通し、順序など」（＊3）に配慮しながら表現されています（**構想**）。葉は上下左右、風は左下から右上へ、落ち葉は整然と並べるなど、動きやバランス（＊4）などを活用しようという姿も見えます（**思考力、判断力、表現力等**）。

ま と め

教科書に掲載されている作品は、「何がかかれているか」というよりも、かかれていることから、その子の発揮した資質や能力を捉えることが大切です。

本題材では、先生が題材名を伝えたとたん、「わたしの６月？……何だろう」と子どもたちの頭の中が動き始めます。次に、教室の外に出て風や光と関わったり、友だちと語り合ったりしながら、表したい思いが生まれます。そして、自分の感じたことを手がかりに、自分らしい発想で、表し方を工夫し、「わたしの６月の絵」が生まれます。

子どもの活動に沿って、子どもが発揮した知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等をたどりましょう。

文：奥村高明（おくむらたかあき）
日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授
1958年宮崎県生まれ。小中学校教諭、美術館学芸員の後、文部科学省教科調査官として学習指導要領の作成に携わり、現職。日本文教出版Webマガジン『学び！と美術』執筆者。

〈今号のひと言〉
テレビを買い替えました。テレビ画面から直接音が鳴ります。表面のパネルそのものを震わせて音を出す技術だそうで……メイド・イン・ジャパン、すごいぞ！

「わたしの６月の絵」の題材をベースに「わたしの３月」を見付ける活動を『そぞろみ部』として行いました。

＊1：小学校学習指導要領　図画工作　第3　指導計画の作成と内容の取扱い　2（3）　〔共通事項〕のアの指導。
〔共通事項〕のアは、知識に関する指導事項として発達を踏まえながら以下のように示されている
ア　第1学年及び第2学年においては、いろいろな形や色、触った感じなどを捉えること。
イ　第3学年及び第4学年においては、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを捉えること。
ウ　第5学年及び第6学年においては、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉えること。
＊2：前掲註1のアからイへの発展でしょう
＊3：平成29年度小学校学習指導要領解説　図画工作編　p.64
＊4：前掲註1のウ

じっくり見ると、いろいろなことを考えながら表しているのが分かるな。
教科書に載っている作品の発想や工夫も見てもらえるといいな！

土のライブラリー
2018

栗田宏一（くりた こういち）
山梨県
1962～

土とは「地球のかけら」です。
地球上の生物、植物、鉱物が様々な色にあふれているように、
それらのかけらを含む土もまたカラフルなのです。

詳しい解説は
こちらから▼

教科書美術館について
詳しくはこちら

※この作品は、新版図画工作科教科書3・4上「教科書美術館」のために制作していただきました。

若くして「土」に魅せられて以来、
日本全国、三千を超える市町村で
三十年近くにわたって、土を採集し、
展示をしてきたアーティスト——栗田宏一（くりた こういち）さん。
一つとして同じもののない多様な「土」の声を聞くと、
「人間」と「自然」とのあるべき関係が
浮かび上がってくる。

栗田宏一

―若い頃の旅の経験が作家活動に大きな影響を与えたそうですね。

二四歳からバックパッカーとして、のべ五年間ほど世界を歩き回りました。旅の始まりはインドでした。

インドのラジャスタンの砂漠を訪れたとき、回りには、燃料に使うために牛のふんを拾ったり、飲み水を汲んだりと、生きるのに必死な人々の姿がありました。ちっぽけな自己を抱えて日本を飛び出した生意気な自分がとても恥ずかしく、それまでの経験や固定観念があっという間に崩れていきました。

インドの太陽熱は容赦なく肉体から水分を奪います。人間と言えども、水分がなくなればただの干し肉です（笑）。そのとき気が付いたのは、道に転がっている牛のふんや土や石ころと、自分の肉体とが、物質としてなんら違いのないということ。変な話ですが、牛のふんや土に妙な親近感を覚えたんです。

人間は文明の発達と称して自然破壊を思うがままにしていますが、実は人間は自然界の一員に過ぎない。このシンプルだけど重要な「気付き」を伝えたい、それが私のアーティストとしての出発点です。

自分が自然界の一員だと考え直せば、自然を傷付けることは自分自身を傷付けることになります。このことを頭で理解するのは簡単ですが、実感することは難しい。本当に分かりやすくて、人前にぽんと出せるものがないかと、ずっと考えていました。それで気が付いたのが、自分の足元にある「土」だったんです。

土には、葉っぱとか木とか虫とか、有機物、無機物問わず、地球上の全てのかけらが含まれていて、しかもひと握りにできる。こんなものは土以外にはありません。そこに人間のかけらも入っていることに気が付いたときに、「土に還る」という言葉の意味を深く理解しました。土をアートとして見せることで、人間も自然界の一員だと伝えることができるのではと考えました。

―いろいろな土地の土を採集し、展示するスタイルになったのは？

スタートは東京の小さなギャラリーでした。拾ってきた土とか石ころとかを展示したのですが、まあ誰も面白がらない（笑）。やっぱり百や二百種類の土を集めても、人は面白がりませんし、自分も土のポテンシャ

（22ページへ続く）

文：細川英一（ART DIVER）／写真：池ノ谷侑花（ゆかい）／協力：越後妻有里山現代美術館［キナーレ］

ルを測りかねていました。でも千種類を集めたころには、とてつもない仕事を始めてしまったなと。一万種類となるとその世界に圧倒され、ひれ伏すしかない。それまで手探りだったものが確信に変わり、人に伝えなくては、という使命感さえ生まれました。

初期は、ランダムに土を採集し、その多様な美しさを提示するだけでした。やがて、鑑賞者の反応から、人は自分の生まれた故郷や住んでいる場所の土地の土が展示されていたらうれしいものだと気が付きました。見る人にとっての「自分の土地の土」が、この作品の入り口です。全ての人に対して入り口をつくるため、日本全国にある三二三三の市町村の土を採集するプロジェクト「ソイル・ライブラリー」を始めたのです。

―作品の制作手順を教えてください。

まずはその土地に行くこと。そしてその土地のどこでもいいので最低一カ所を選んで土を採集します。かつては赤色や黄色のカラフルな土が露出しているところから採集していましたが、なんでもない畑や街中でも微妙な色の違いがあることが分かってからは、特徴的な土を探すことへのこだわりは捨てました。

採集するのは、片手でひと握りのみ。一センチの土ができるのに百年かかるといいますから、おいそれと土を掘りおこす気になれず、表層だけをすくいとるようにしています。

家に持ち帰った後は、風にあてて乾燥させ、乾燥したらビニール袋で保管します。このプロジェクトは九五、六年頃に始めましたが、二十数年をかけて全ての市町村の土を採集することができました。今では、二周目、三周目に入っていて、三万五千種類ぐらいのストックがあります。重さでいうと二トン以上です。

―土を小瓶に入れて展示するのは、どういった意図があるのですか。

私の作品にはインスタレーションでその場限りのものもあるのですが、ある時から、今、生きている自分たちしか楽しめない作品は、作家のわがままではないかと思うようになりました。

「ソイル・ライブラリー」という作品は伝えることが大事なのですが、今の人だけでなく、未来の子どもにも伝えたい。それも記録写真ではなく、現物として残したいと考えました。それで発見したのが、瓶に入れて残すという手法です。瓶は薬瓶を使っているのですが、密閉できて湿気が来ないという実用的な理由で選んでいます。「ライブラリー」の名の通り、図書館のように番号や地名を付けることで、後の時代の人にも分かりやすく伝わるような仕様にしています。

―鑑賞者にはどのように見てもらいたいですか。

作家が何を考えてつくっているかよりも、まず見る人が考え、想像する楽しみを大事にしてほしい。「土」に一つとして同じものがないように、アートには百人百様の答えがあっていいのだと思います。

かつて舞踏家の土方巽（ひじかたみつる）が、「自己表現するやつは気持ち悪い」というような趣旨の言葉を残していますが、私はこの発言に共感します。私の制作は自己表現ではなく、「自然」という大きな存在のトランスレーターです。

だから私は、あえて造形表現から遠ざかる制作に身を置いています。専門学校で宝石研磨を学んだ授業の中で、数万年前の水晶の原石のあまりの美しさを目の当たりにしたことがあります。しかし、次の授業では原石をカッターで切って大黒様をつくる。それが人間の造形です。

私はそうした造形ではなく、自然のありのままの姿を伝える表現を選びました。「土」という誰もが見向きもしないものに、自然の偉大さを感じて展示することは、やはりアーティストの仕事であると私は信じています。

▶栗田宏一

Profile：1962年山梨県生まれ。「世界の多様性」をテーマに数百種類の土を並べるインスタレーションを各地で発表。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」への参加のほか、国内外で個展多数。

▶越後妻有里山現代美術館［キナーレ］

Photo by Keizo Kioku

2003年、十日町ステージ「越後妻有交流館・キナーレ」として誕生した同建築を前身とし、2012年にリニューアルされ現代美術を収蔵する美術館として生まれ変わる。栗田宏一の「ソイルライブラリー／新潟」を常設展示している。

新潟県十日町市本町６の１丁目71-2
TEL：025-761-7767　http://smcak.jp/
◎開館時間　10:00～17:00
※大地の芸術祭期間中は変更の場合がございます。

水曜日、年末年始休館

新しい教科書のために栗田さんがつくってくださったこの作品に出会って、子どもたちも「考え、想像する楽しみ」を感じてくれるといいな！

新版 教科書 3・4上 p.2-4 「教科書美術館　しぜんの色」より

ひらけ！ ミュージアム・エデュケーションのトビラ

札幌芸術の森美術館 ハロー！ ミュージアム

ミュージアム・エデュケーション（教育普及）とは、美術館や博物館で展示と並行して行われている、美術や文化を主体的に学ぶことを支援するための様々なプログラムのことです。今回は、札幌芸術の森美術館が札幌市や学校と一体となって取り組んでいる、子どもの文化芸術体験事業「ハロー！ ミュージアム」について学芸員の井上さんにお話を伺いました。

充実した鑑賞活動のために学校での事前学習を全面サポート。

札幌芸術の森美術館では、二〇〇八年より札幌市の小学校五年生を対象に、美術作品に親しみ、創造的活動を体験するための「ハロー！ ミュージアム」を実施しています。学校ごとに四つのコースから選択でき、「芸術の森美術館コース」「野外美術館コース」「彫刻美術館コース」「ソイルアートコース」では鑑賞と表現を組み合わせた活動を行います。

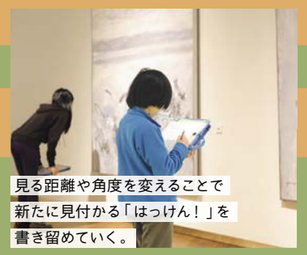
美術館での活動を充実させるためには、学校での事前学習が大切だと考えています。先生向けの説明会では、活動内容の説明に加えて、学芸員が事前学習の模擬授業を行います。先生にお渡しする「事前学習キット」には、児童用のしおり（＊）に加えて、事前学習の指導展開例や授業で使えるスライドデータなども入れて、先生が鑑賞のコツや美術館でのマナーを教えやすいようにしました。事前学習の最後には、美術館で鑑賞する作品の予告の時間を設定し、本物の作品を見ることが楽しみになるようにして、当日に子どもたちがより主体的に取り組めるよう工夫しています。

本物の作品との出会いを通じ美術の魅力を知ってほしい。

当日は、参加児童がスタッフと対話をしながら鑑賞し、自由に意見や感想を伝えあうことから始めます。鑑賞活動のコースでは、その後各自で鑑賞し、気付いたことや感じたことを「はっけん！ カード」に記入していきます。このカードは、言葉やスケッチなど児童それぞれにあった方法でメモできるようにしました。事前学習で学んだことを思い出し生かせるように、鑑賞の三つのわざ「近くから見る、遠くから見る、いろいろな角度から見る」の言葉も余白に入れています。まとめの時間ではカードを基に発表しあい、さらに鑑賞を深めることができます。

参加した先生からは、子どもたちが作品を理解できるか不安だったが、その子なりの見方で自由に鑑賞を楽しむことができ、「美術って面白いね」と言っていた児童もいたと伺いました。こうした評価の高まりとともに、初年度の一四校参加から二〇一六年には札幌市内全校の約一〇〇校が参加するまでになっています。

今後も、本物の作品との出会いを通して、鑑賞や表現の楽しさなど美術の魅力を知ってもらえるよう試行錯誤を重ねていきたいです。



見る距離や角度を変えることで新たに見付かる「はっけん！」を書き留めていく。

裏表紙の「3つのやくそく」で美術館でのマナーを学ぶ。

（＊）しおり表紙のイラストは事前学習の鑑賞題材としても活用。

井上みどり（いのうえ）
札幌芸術の森美術館 学芸員

札幌芸術の森美術館
札幌市南区芸術の森２丁目75番地
TEL.011-591-0090
https://artpark.or.jp/shisetsu/sapporo-art-museum/

新版 教科書 5・6下 p.36・37 「図画工作のつながり ひろがり　美術館へ行こう」より

まず見る

第二二回

教科書に載っている、あの作品。
誰もが知っている作品や、初めて出会う作品。
いつもの見方はいったん忘れて、一緒に新しい見方を試してみましょう。
それまで見えなかった作品の一面が、見えてくるかもしれません。

ボール・シート・ボール
（シー・スルー）

［高さ81cm／スーパーボール・アクリル板］2014
新潟市美術館所蔵
冨井大裕（とみいもとひろ）［新潟県・1973〜］

© Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

撮影：内藤雅子

「ひらめきポケット」について詳しくはこちら

新版教科書 3・4下 p.34・35「ひらめきポケット　組み合わせる」より

名前を忘れてみる

パソコンで画像を編集していると、切り抜きたい図の境界がうまく読み取られなくてストレスを感じることがあります。言うまでもなくそれは、人とコンピューターの認識方法が異なるためです。一枚の紙に何が印刷されていようと、部分的に影が覆っていようと、私たちにとって一枚の紙という意味的価値に変わりはありませんが、色や明るさの価値で判別する機械はそのように認識しません。

つまり、コンピューターは、名前を知らない（近年ではAI技術によって、この問題も克服されつつあるようですが）。逆に言えば、私たちは名前を知っているがゆえに、その揺るぎなさから離れ難い。では私たちも機械のように、名前を、忘れることができるでしょうか。

写真家というのは名前を忘れる技術が必要な仕事でしょう。猫を撮るにも、写真家は猫を猫としては見ない。写真を作品として成立させるために、見えているものを「意味」で判断しないように訓練されているのです。そこにいるのは猫ではない。写真の一部を占める、ある特定の色、光、陰影、反射率、質感などを備え、ある大きさと奥行きで四角い枠に配置される、視覚情報の束なのだ、と。

猫を猫として見ないこと。ふわふわした色の塊りとして見ること。注意すれば、身の回りには半ば忘却されたような存在があることに気付きます。例えば「材料」とか「素材」と仮に呼ばれているものがそうです。それらは確定した物質でありながら、不確定な可能性に開かれている。パレット上の絵の具は、何かの絵になるまでの自由に浮いた状態に過ぎず、粘土でも折り紙でも小麦粉でも、ある形を与えられた途端に名前を得て、材料であったことは忘れられる。意識してみると、目に見えるあらゆるものが材料です。

三次元を二次元に落とし込む写真と比べて、三次元をそのまま扱う冨井大裕さんの場合はもっとラディカルです。私たちがよく知っている、はっきりした名前を持つ既製品が、ここでは名前を奪われて「材料」扱いされている。投げたり高く弾ませたりという、スーパーボールがスーパーボールであるための理由は無視され、穴の開いた板に挟まっています。ただ丸い、つややかな、透明感のある、色の塊りとして。スーパーボールをスーパーボールとして見ないこと、視覚情報の束として抽象化することが、皆さんにはできますか。

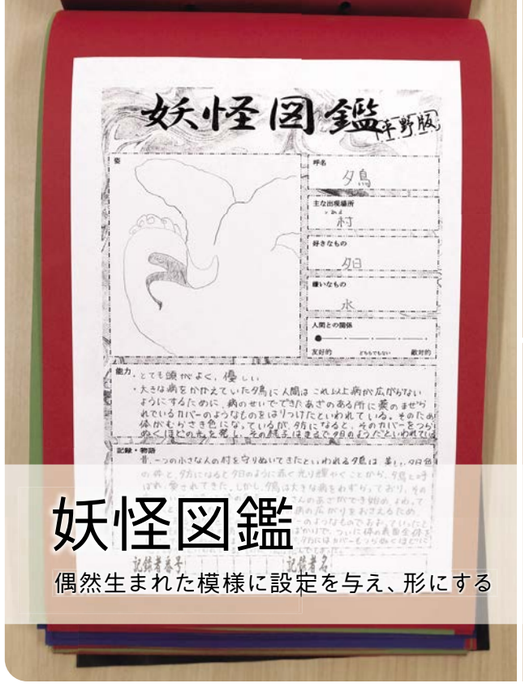
新しい名前を知ることが、世界の見え方を変え、視野を広げてくれることは誰もが経験しています。しかしいったん知ってしまうと、見え方が固定されて解除できなくなる。そうとしか思えなくなる。つまり言語は私たちを縛っている最も強力な制度のひとつであり、だからこそ、美術はしばしばその制度に挑みます。名付け難いような、不定形な、ぬるぬる、べちゃべちゃなものは恐ろしい。だから名付けたくなる。しかし反対に、名前が確定したものをぬるぬるに戻すことは、一層世界の見え方を変え、視野を広げてくれることでしょう。

文
成相　肇　なりあい・はじめ
東京ステーションギャラリー学芸員。
一九七九年生まれ。府中市美術館学芸員を経て、二〇一二年から現職。
主な企画展に「石子順造的世界」、「ディスカバー、ディスカバー・ジャパン」、「パロディ、二重の声」など。

〈今号のひと言〉
僕が勤めている東京駅という場所には、じつにたくさんの人が訪れるので、ただそこにいるだけで、言語や服装、習慣など、幅広い情報が入ってきます。例えば平気で地べたに座る人を見るたびに驚かされますが、自分にとっての当たり前が決して当たり前でないことを知るのは楽しいものです。

東京ステーションギャラリー展覧会情報
「ルート・ブリュック　蝶の軌跡」
（二〇一九年四月二七日〜六月一六日）

この作品を見ているといろいろなものが材料に見えてきそうだ。だから「ひらめきポケット」はやってみたいことを思い付くヒントになるんだな！



妖怪図鑑

偶然生まれた模様に設定を与え、形にする

真っ白な紙に自由に表現することに、ためらう生徒も少なくありません。
偶然生まれた意外な表現を楽しめるようにと中島先生が選んだテーマは「妖怪」。
なぜ妖怪が生徒の心を開放するのか、
題材に込められた思いと工夫についてお聞きしました。

大阪府　大阪教育大学附属平野中学校　中島（なかじま） 嵩（たかし） 先生

妖怪が促す自由な発想

水に墨を流し、紙に写し取る墨流し。紙に吸い付くように模様が現れた瞬間、「おお〜！」と声が上がります。そして次に、その模様の中から妖怪のように見える不思議な存在を見付けだし、墨で描画。その妖怪の性質や人間との関係などをイメージしながら彩色をすることで、自分が見付けだした妖怪を表現しました。

妖怪と設定したのは、自由な発想を促しやすいから。生徒には、妖怪とは神様のような存在や無機物など様々であり、一つの決まりがないからこそ、歪みの中に面白さを見いだせることを説明します。そういった妖怪の許容性を生かし、火を吹く妖怪「ファイヤースネーク」など、自由に妖怪を生み出してくれました。

見方を広げる材料・用具

なかなか妖怪を見付けだせない生徒には、「墨流しの紙を回転↙したりひっくり返したりしてみたら？」と声がけします。墨流しには模様が透ける和紙を使用しているので、紙の向きを変えて模様を見ることもできます。色が濃く出る表では気付かなかったけれど裏だと妖怪に出会えたなど、発想の可能性が広がりました。

また、妖怪は墨流しの紙に直接描くのではなく、トレーシングペーパーに筆を使って墨の線で形を取ります。トレーシングペーパーを使ったのは、後から元の模様を振り返りたいと考えたから。パタパタとめくりながら墨流しの模様と描いた妖怪を交互に見ることで、「あ、そうか！」「こういうふうになっているんだ！」と発想のプロセスを振り返ることができます。

描きながら構想を深める

彩色は裏彩色で行います。透明・不透明の水彩絵の具を自由に選び、自分が感じ取った妖怪を表現。例えば、水のそばに生息する妖怪には淡く色を乗せた↖り、先に塗った部分が最後まで生きる不透明水彩による裏彩色の特徴を生かしてグラデーションにしたり。強いイメージの妖怪は筆を倒して太い線で描くなど、線の強弱でも妖怪の性質を表現します。生徒たちは絵を描くのと同時に、妖怪の名前や性質、生息地なども考えているので、彩色の段階でデータシートを配布します。線や色のイメージから設定を発想し、思い付いた設定をまた線や色で表現する。こうして往還しながら、妖怪を練り上げていきました。授業最後の相互鑑賞では絵と設定を記したデータシートを見比べて、「線の太いところの影がかっこいいなぁ」「グラデーションがいい」などの声も。

この題材を通して、発想は自由に広げられるのだということを知るとともに、形にする力も大事にしてほしい。同じように、他の人が発想し、形にしたものを受け取る力も、伸ばしてほしいと思います。

指導計画

時間	領域
5時間	A表現・B鑑賞

材料・用具

墨、絵の具、和紙、トレーシングペーパー、色鉛筆、色ペンなど

学習目標

墨流しの模様から不思議な存在である妖怪を見付け、その形（イメージ）を描きだす。

題材の目標

●知識及び技能

用具の生かし方を考え創意工夫して表現し、造形的な見方や考え方を働かせ、対象のイメージなどを感じ取る。

●思考力・判断力・表現力等

形や墨の濃淡の特徴を基に発想を広げ、主題を生み出すことから、目の前の現象や変化を捉え、新しい発見や豊かな発想につなげる。また、自他の作品のよさや美しさを味わう。

●学びに向かう力・人間性等

形や墨の濃淡の特徴から想像したイメージを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出そうとする。

「妖怪図鑑」活動の流れ

① 墨流し

アジアの文化として親しまれた墨流しについて学んだら、実際に体験します。水に墨を流し込み、和紙に模様を写します。

② 妖怪探し

墨流しの模様を見つめ、不思議な存在を探します。見付けたらトレーシングペーパーを重ね、筆を使って形取ります。

③ 妖怪を彩り、設定を考える

妖怪の性質・特徴に合わせ、濃淡や色の層を生かすなど塗り方の工夫は様々。思い浮かんだ妖怪の設定をすぐに書けるよう、データシートは彩色のタイミングに配布します。

④ 相互鑑賞

最後に台紙と飾り紙を選んで装丁。作品とデータシートを併せて鑑賞し、印象に残った3人分ほどの感想を鑑賞シートに書いていきます。

Message

生徒たちの自由な発想を支えるのは、「安心」だと思っています。安心できる環境があるからこそ、自由に発想できるし、お互いの作品を受け入れながら見ることができる。生徒たちが自分の表現に安心して取り組んでいける場をつくれる先生になりたいなと思います。

特にこの題材は、偶然を利用するもの。思い通りにならなかったからといって失敗したなと思うのではなく、ピンチをチャンスに変える、偶然を生かす力を美術の時間を通して身に付けてほしい。そうすると、社会に出たときに、つらい状況でもその状況下でのよさを見付けて、どうチャンスにつなげるのかという考え方ができるようになるのではないかと思います。

生徒が安心できる場をつくりたい

妖怪図鑑をご覧いただけます

第8回

ラフスケッチ 特別編

図画工作、美術の授業で学んだことを生かすことで、
どんな世界が広がり、どんな未来が描けるのでしょうか？
各地で活躍する高校生にスポットを当てて紹介する「ラフスケッチ」。
今回は、東京都立両国高等学校に通う4名の高校2年生(*)に
集まってもらい座談会を実施。たっぷりお話を伺いました。

東京都立両国高等学校
東京都墨田区にある中高一貫型の都立高校。総合的な思考力を養うため、教科横断型の教育に力を入れている。中学美術は幅広い分野に触れる実践、高校では映像制作や自由制作などを行い、生徒自身が身の回りにある美術に気付いたり、自分自身を深く見つめたりするきっかけとなるような授業を展開している。

森田 晴樹（もりた はるき）さん
積極的に自主制作を行いネット上で発表している。幅広い美術分野に興味があり、“好き”を模索中。

武者 弓（むしゃ ゆみ）さん
バスケ部に所属。デザインや映像制作に関わる事に興味を持っている。

森 優久（もり ゆうく）さん
昨年1年間、米国アリゾナ州で留学を経験、人とコミュニケーションを取ることが好き。

宇田川 侑香（うだがわ ゆか）さん
美術部部長。デザインやマーケティングに興味があり、美大進学を目指して勉強中。

知らないものを知るということは何事にも大事。
自分の好きな絵だけ描いていても上達しないし、
他人の絵を見ないと他人と自分の違いも
分からないし。（武者さん）

図画工作や美術の授業を振り返って

森さん 今でもよく覚えているのが、小学生の図工で取り組んだ、一枚の板からいろんな形のパーツを切り出してグルーガンで貼り付ける授業。みんなは家のようなものをつくっていたのですが、私はパーツを斜めに貼り付けるなどして立体作品をつくりました。小学生のころから、人とは違ったユニークなものをつくりたいという思いが強かったんですよね。

森田さん そうそう、森さんはいつも変わったものをつくっていたよね（笑）。僕は、中学に入ったばかりのころ、「中学の美術って、ザ・美術、みたいなスキルを求められるものばかりなんだろうなあ」と恐れていて（笑）。でも、中学校の最初の授業で抽象画に触れて、「美術はスキルよりも気持ちよさを求めるものなんだ」「自由でいいんだ」と気付けたんですよね。

美術がなくても生きていけないことは
ないかもしれないけど、美術がなくなったら
楽しみが一気になくなっていく気がする。
（宇田川さん）

宇田川さん 私は、美術の授業で自己流の色を見付けられたことがよかったな。授業でいろんな人の色の塗り方を見て、淡い色やグラデーションのつくり方を知って……。素敵だなと思って真似しているうちに、それが組み合わさって自己流になり、自分の色や世界があることを知りました。

武者さん 自己流を見付けたときのうれしさ、分かるなあ。私は高一のとき、一度、絵画の王道をやってみたいと思って自由制作で挑戦した油絵が印象に残っています。女性の身体を描いたんですが、人の身体がもつ曲線を表現したり、影を付けたりするのが本当に難しかった。曲線を際立たせるため、淡い色合いだった背景を黒く塗り↙つぶしてみたり、背景と身体の境目を何度も描き直してみたり……。そうやって繰り返し描いているうちに、偶然、「あ、これいい！」という線が生まれたりして。何回も描くから分かること、できること、自己流が見付かることがあるんだと気付きました。

美術は正解がないので、
いろんな解釈ができるという意味で
すごい可能性を秘めている。
（森さん）

今、美術で学んだことや考えたことをこれから、どう生かす？

森さん 美術を通して学んだのが”自分らしさを追求すること“。美術部の活動時間にふと思い立って小さいペーパーナイフをつくり始めたことがあったんですが、途中でやする楽しさに気付いてしまって。登下校のときや休み時間に一〇〇番～一五〇〇番までのいろいろなやすりを使って、スベスベ感や自分の気持ちのよい形を追求することに情熱を燃やしました。自分がやりたいこと、気持ちがいいと思う形や手触りを追求できて楽しかったなあ。自分らしい作品をつくることで他者との違いが明確になり、それがアイデンティティの確立につながっていく、そんなことを実感できた時間だったと思います。こうして磨いてきた”自分らしさ“を探す力を生かして、これからは人生そのものを模索したいと思っています。

武者さん 私は高校の美術の授業で、グループで映像制作をしたことがとても楽しかったこともあり、最近好きなアーティストのPVに注目するようになって。PVの監督が自分と年齢の近い若い方だということが分かり、私もいつか好きなアーティストと仕事ができたらいいなと思ったり……。あとは最近、駅にあるポスターなどのデザインにも目が留まるようになって。今は、映像制作やデザインに携わる仕事に興味があります。

宇田川さん 私もデザインに興味があります。多少値段が高くても、形や色など、自分がいいなと思うデザインがされているものを買ってしまうんですよね。購買意欲を高めるデザインとか、売れるデザインに興味があって。将来は美術で見付けた”自己流“を生かしつつ、デザインやマーケティングを学びたいと思っています。

森田さん 僕は、美術で学んだ技術を将来に生かすというより、今はこれが好きという気持ちを育てることを大切にしたいです。美術の授業や日々の制作を通じて、僕が何かをつくりたいと思うときは、その元となった作品に感動したときだと気付きました。最近はネットなどで情報を集め、自分の好きなものからヒントを得て、作品をつくり公表しているんですよ。美術は心や思考のプロセスを育てるもの。それをただひたすら大切にし、自分の内部を磨いて、固めて、少しずつ自分を確立していけたらいいなと思っています。

美術の授業は学びを通して、
心の動きが確実に生まれる。
（森田さん）

先生から一言

四名の生徒たちが各々の感性で美術を見付け、捉えていることが伝わってきて、話を聞いていて非常にうれしく思いました。美術を学ぶということは、「自分を探すこと」でもあります。自分を探し、内面に向き合い、「表現したい何か」を探り当てた人は、「ゼロからイチを生み出す力」を持った強い人。美術を通して豊かな創造力にあふれた大人になることを期待しています。

座談会っていいね。
知らなかったことが
いっぱい聞けるから。

中西（なかにし） 一洋（かずひろ） 先生
東京都立両国高等学校主幹教諭

 ＊取材日：2019年3月8日

新版図画工作科教科書 特設サイトが開設！

特設サイトの入り口ページでは、
新しい教科書のポイントを端的にご紹介しています。

ダウンロード資料、デジタル教科書、
指導書情報などもこちらから。

※掲載している紙面や画面は全て編集中のものです。内容は変更になる可能性があります。

【特設サイトコンテンツ】

●内容解説動画

教科書著者が新しい教科書について分かりやすく解説。
８本の動画で、編集のこだわりやポイントをお伝えします。

〈各動画のタイトル〉

教科書に込めたメッセージ／主体的な学びを支える「学習のめあて」／題材ページを授業で活用しよう／子どもの心を動かす写真／対話が生まれる「教科書美術館」／発想が広がる「ひらめきポケット」／特別支援教育への配慮／ＥＳＤの視点／

●内容解説資料電子版

内容解説資料が日文Webから
電子書籍でもお読みいただけます。
新しい教科書の特長と魅力を
あますところなくご紹介。

●使ってみよう！ ずがこうさくの教科書

図画工作の教科書、授業で使っていますか？
基本の使い方から意外と知らない活用術まで、
山田先生がまるっと教えます！

●図工のお悩み相談室

先生の質問・疑問にお答えします。
質問は随時受付中！

●Web マガジン 学び！と美術

奥村高明先生がおくる図画工作・美術教育の最前線。

日文 図工　検索
詳しくはWebへ！

中美チュービ 中学校美術の先生応援サイト

スマホでも！

収録コーナーのご紹介

大橋功先生★美術のチカラ
～美術による学びの成長ストーリー～
中学校美術による学びのチカラを、３年間の生徒の成長する姿に重ねて、大橋功先生と一緒に考えていく連載コラムです。

各界の方々に聞きました！
つながる美術
美術教育の素晴らしさを美術教育以外の視点からインタビューします。

中美な人
～もっと知りたい指導の工夫～
「学びのフロンティア」をWebでも展開します（中学校のみ）。

『村上センセイが行く！
全国美術室探訪
隣の中学校は何をしているの？ 動画版』
村上先生と全国の先生の対談動画を公開します。

指導の悩みABC ～先輩からのアドバイス～
指導での疑問を取り上げ、解決へのアドバイスを提案！

授業づくりのABC ～題材のポイント～
題材ごとにポイントを絞った解説を掲載します。

LINE@ はじめました
「友達募集中」
登録は、こちらのQRコードから！
普段お使いのLINEに
『中美（チュービ）』の
更新情報等をお届けします！

日文　中学美術　検索
詳しくはWebへ！

新版図画工作科教科書 教師用指導書のご案内

朱書編

※評価規準例は編集中（文部科学省の参考資料公開時に作成）

各題材ページについて導入のポイント、指導の手立て、評価の視点などの解説を付けました。授業の入り口から出口までを丁寧にサポートします。

指導解説編

※評価規準例は編集中（文部科学省の参考資料公開時に作成）

詳細な指導案例で題材をより深く理解できます。発問の具体例や、児童の状態に応じた展開も掲載。授業研究にも活用できます。

材料・用具編

材料の特徴、用具の安全な使い方、技法の手順など材料・用具の基礎から応用までをビジュアルで紹介します。

アート・カード

好評のアート・カードに、素材カードや言葉カードなど新しいカードが加わります。

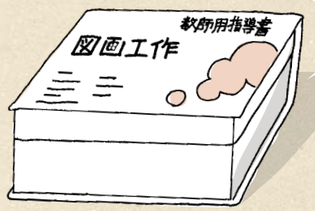
大判掲示資料

材料の種類や特徴／用具の使い方／美術作品等の大きな掲示資料を収納しています。

指導者用デジタル教材

ストーリー仕立ての導入動画、用具の使い方や技法を紹介する動画をはじめ、指導案例やワークシートなど役立つデータが満載です。

その他、実践事例編や年間指導計画作成資料など、指導に役立つコンテンツがセットになっています。



学習者用デジタル教科書

「学校教育法等の一部を改正する法律」の公布により制度化された「学習者用デジタル教科書」を2020年４月に発売します。

※掲載している紙面や画面は全て編集中のものです。内容は変更になる可能性があります。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。これからも「図画工作・美術」を応援します。

小学校図画工作科教科書

中学校美術科教科書

高等学校芸術科美術教科書